

# 生活困窮の若者の自立支援について

## 1. 提案の背景

近年、若者の間で『親ガチャ』という言葉が流行

その背景として…

- 生まれ育った家庭の環境によって、将来への夢や希望を持つことを諦めてしまう若者や、
- 児童養護施設など社会的養護の下からの自立が困難な若者（ケアリーバー）が存在。



(参考)キーワード

『親ガチャ』とは

ガチャガチャで出てくるアイテムのように、親は自分で選べず、当たり外れがあるという考えを表現した言葉。

生まれた時の環境や親で自分の人生が決まっているという人生観が若者に広がっている。

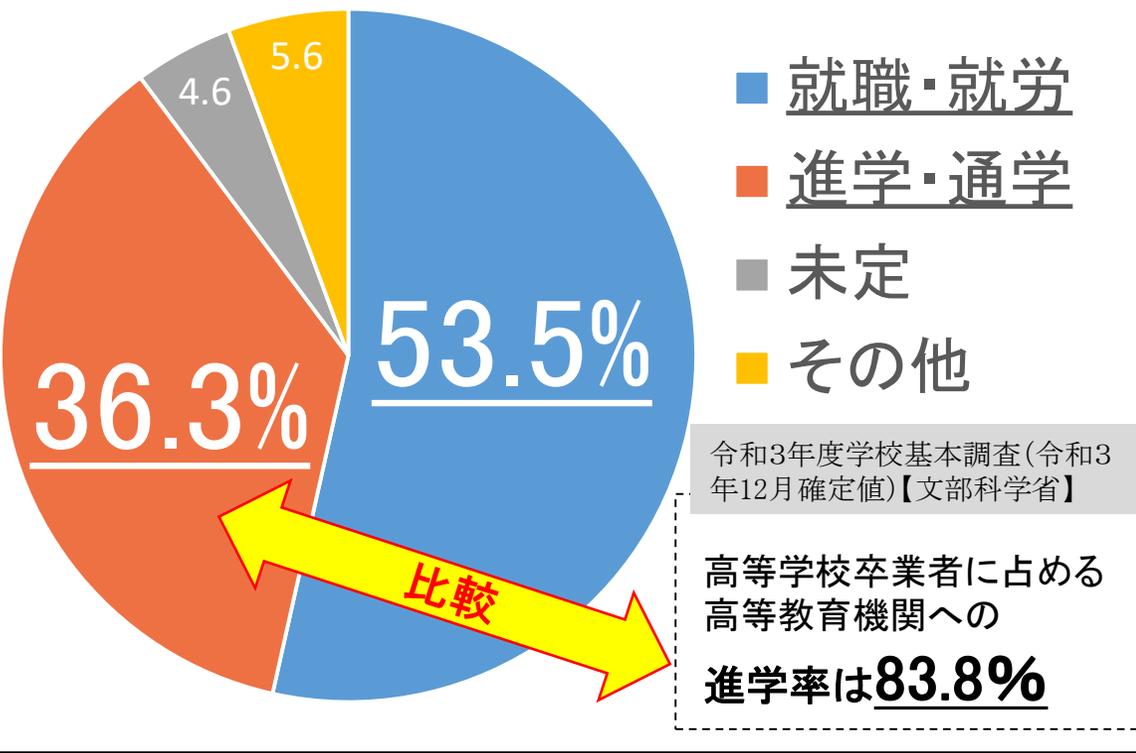


➡ その多くが生活困窮に直面

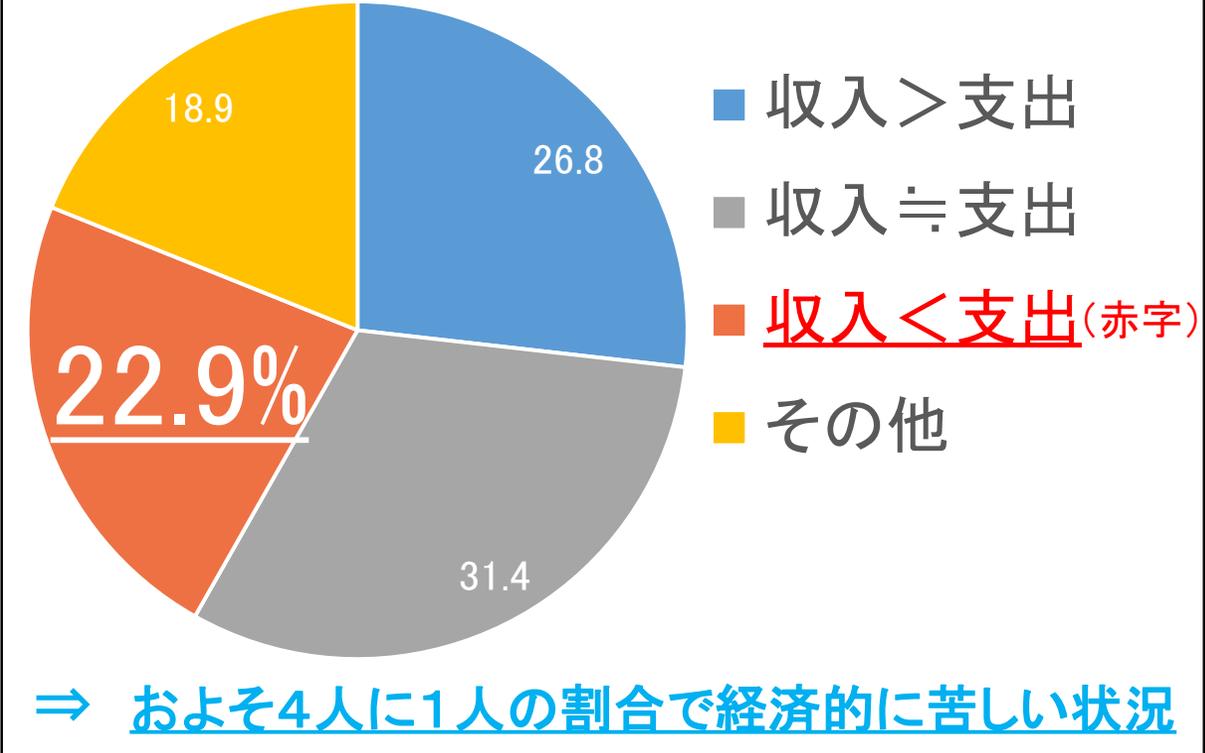
## 2. 現状

「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者（ケアリーバー）の実態把握に関する全国調査報告書」【厚生労働省（令和3年3月実施）】

（問）児童養護施設等を退所した直後の進路は。



（問）月々の収支バランスは。



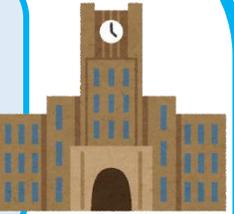
→ こうした困難な環境下にある若者たちを力強く後押しする必要があるが、様々な課題がある。

### 3. 課題

①

虐待などで**家庭からの支援を受けられない大学生等**

生活保護を利用したくても、大学生等は制度の対象外となっているため、大学等を退学若しくは休学しなければ生活保護が受けられない



②

自立を目指す**ケアリーバーを支援する自立援助ホーム**

同じ定員規模の児童養護施設に比べ、行政からの財政支援が少ないため、新たなホームの設置が進まず、ケアリーバーのニーズに対応しきれていない



③

家庭の経済状況にかかわらず、大学等での学びを継続したい若者のための「**高等教育の修学支援新制度**」

支援の対象となる世帯が限定的で、また、一人あたりの補助額が少ない等の理由から、活用できず修学を諦めてしまう



こうした諸課題を解決し、困難な環境にいる若者たちを社会全体で支え、いずれそれぞれの道で活躍することができるよう、  
**自立に向けた歩みを力強く後押しするには、国による支援が不可欠**

## 4. 提案内容

- 1 虐待などで家庭からの支援を受けられない大学生等が、 厳しい生活状態に陥った場合は、生活再建までの間も学びを継続することができるよう、必要な支援策を充実すること。
- 2 ケアリーバーに対する自立支援を強化するため、入居による生活・就業支援を行う 自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）の措置費基準を、同じ定員規模の児童養護施設と同程度に改善すること。 また、自立援助ホームに限らず、ケアリーバーへの自立支援を拡充すること。
- 3 大学等での学びを継続したい若者が、修学を諦めることがないよう、 多子世帯への支援の充実も含め、補助の対象となる世帯の拡充、一人当たりの補助額の増額など、高等教育の修学支援新制度を充実すること。